

経営比較分析表（令和6年度決算）

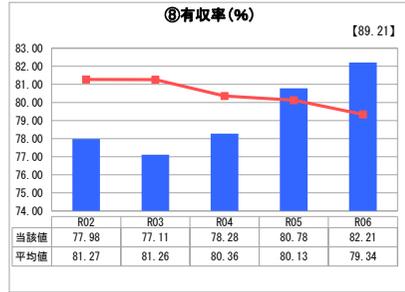
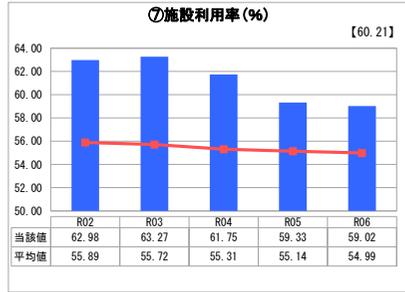
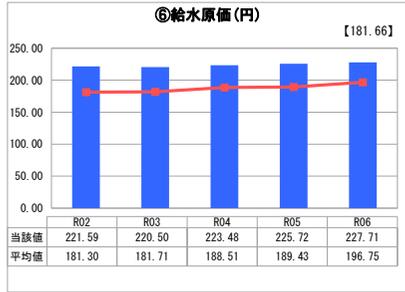
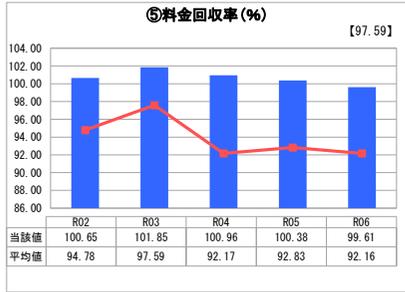
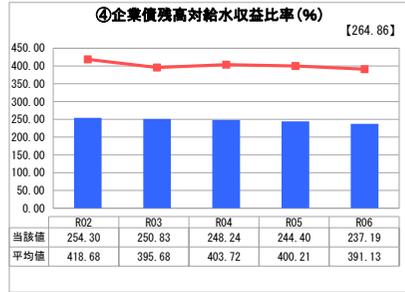
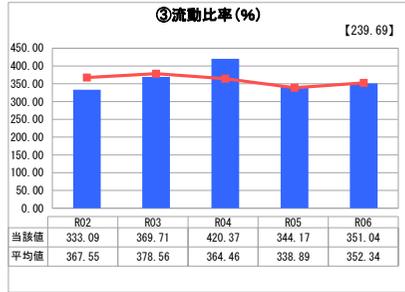
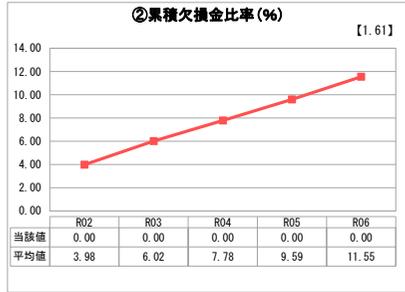
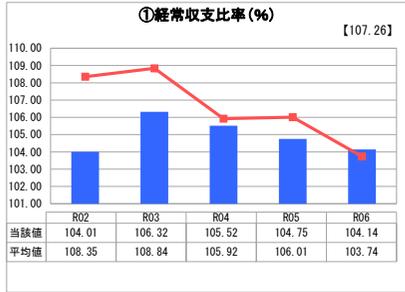
山形県 上山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	70.09	98.60	3,795	

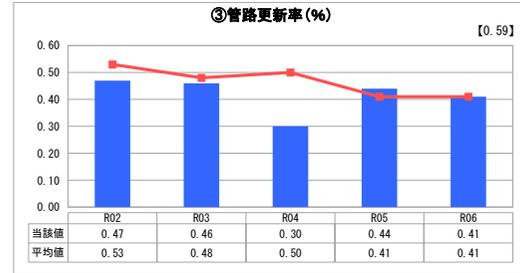
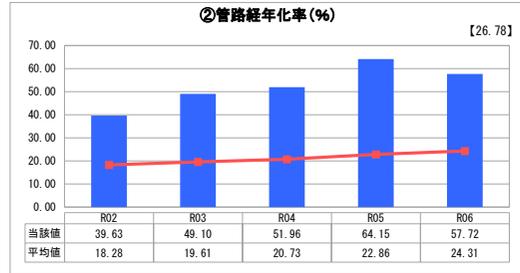
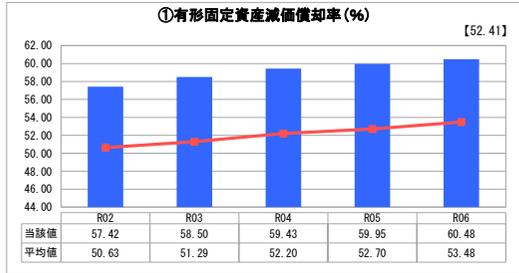
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,584	240.93	114.49
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,919	37.80	712.14

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
100%を超えて黒字を確保しており、おおむね健全な経営であったが、水需要は減少傾向にあり数値は下降傾向のため、100%以上を今後も維持するにはさらに経営改善に取り組む必要がある。
- ② 流動比率、④ 企業債残高対給水収益比率
流動比率は100%以上を超えており、支払できる現金は十分確保し、さらに借入金額を企業債償還額以下に抑え残高の縮減に努めている。今後更新需要増大の見込であり、企業債を活用した更新投資が見込まれるため、健全経営が維持・確保出来るよう計画的な取組を進めていく。
- ⑤ 料金回収率、⑥ 給水原価
全国平均及び類似団体平均を上回ったが、給水の費用を給水収益でまかなう100%を下回った。これは物価高騰や職員給与費の増大の影響によるものと思われるが、経営改善を進める取組で100%以上にするよう努めたい。また、広域水道からの受水によるため給水原価は類似団体平均より高くなっている。
- ⑦ 施設利用率、⑧ 有収率
施設の利用率は60%を下回り、更新に合わせ適正規模を検討していく。有収率は、前年度から向上し82%台となったが収益に結びつかない水量が多い。漏水の早期発見・修理と管路の更新を計画的に進めることでさらに有収率の向上を図り効率的な経営ができるよう取り組みを強化する。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
- ② 管路経年化率
- ③ 管路更新率
有形固定資産減価償却率は緩やかに増加し、管路経年化率は全国及び類似団体と比較大きく増加している。拡張工事時期に一斉に取得した管路の更新需要がピークを迎えているため、アセットマネジメントで管路の更新を平準化しているが、更新率が低く更新需要に追いついていない。
今後もアセットマネジメント等を活用し、ダウンサイジング・スペックダウンを検討しながらも、効率的に優先度をつけて更新に取り組むたい。

全体総括

経営状況は安定しつつも、収益は人口減少に伴う給水人口の減少傾向にあわせ減少している。反面物価高騰や人件費の増加などの要因で維持管理に要する経費の増加が続くと思われる経営環境は益々悪化の状況を示している。今後は一層の有収率の向上と業務の効率化に取り組む必要があるが、厳しい状態は進むと思われる。
効率化の一環として官民連携や広域連携の取組についての調査研究を進めるとともに、料金の適正化についても検討していく。
また施設・管路については、ダウンサイジングや管路更新の優先度をつけることで、効率的・計画的な更新と維持管理を実施し、全体の安全性と効率性を高めていく。